

山梨のさらなる飛躍に向けて



日本銀行甲府支店長
たけうち あつし
竹内 淳

山梨県経営者協会員の皆さまにおかれましては、新春を迎えられ、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年、海外では米国でトランプ政権が誕生し、「米国第一主義」を掲げてTPPやパリ協定からの離脱を決定したほか、北朝鮮やアラブ諸国との対立姿勢を強めました。欧州では、フランスで、EU離脱を掲げた極右政党、国民戦線のルペン党首を破ってマクロン大統領が誕生した一方、前倒しとなった英国の総選挙では、メイ首相率いる保守党がまさかの過半数割れに陥り、EU離脱交渉の行方が予断を許しません。

国内では、衆議院解散総選挙が実施され、自民党が大勝を収めて第四次安倍政権が誕生しました。相場の格言では、昨年の干支、「酉」は「申酉騒ぐ」と言いますが、振り返るとまさに激動の一年だったのではないのでしょうか。

そうした中でも、世界経済は順調に回復を続けており、わが国にも輸出の拡大という恩恵がもたらされています。山梨県の「ものづくり」の技術は、世界中から高く評価されており、半導体製造装置や工作機械などでは、受注の増加に生産が追いつかないと聞きます。

製造業の好調は、雇用・所得環境の改善を通じて非製造業にも波及しており、例えば大型小売店売上高は三月から九カ月連続で前年を上回りました。十二月公表の日銀短観では、県内企業の業況判断がバブル後の最高値を更新しています。「酉」という言葉には、果実が熟して収穫に適しているという意味があると言われますが、昨年は多くの皆様において、日頃のご努力が大きな成果として結実したのではないのでしょうか。

さて、こうした前向きな動きは、本年も続く見通しです。とはいえ、「景気回復の実感が無い」との声

が根強いのも事実です。そうした背景には、日本経済の成長力が趨勢的に低下していることが挙げられます。人口の減少や設備の陳腐化などで、日本の底力が落ちていくのです。企業の皆様それぞれが、五年、十年先を見据えて必要な投資を行い、果敢に生産性向上や市場開拓を図っていくことが、山梨そして日本経済の復活に繋がります。少子高齢化を憂いているだけでは、先へ進めません。二〇二〇年後には、韓国、台湾、さらには中国も同じ問題に直面すると予想される中、パイオニアとしての日本の経験を海外でビジネスチャンスに繋げる発想が必要でしょう。皆様の取り組みを、日本銀行は強力な金融緩和によって支援します。同時に私個人としても、山梨の活性化に向けて、どうすべきか知恵を絞って参りたいと思います。

今年の干支は「戌」ですが、大にとつての一年は人間の七年にも

相当するということ、ドッグイヤーという言葉があります。IoTやAIなどを中心に、技術革新が凄まじいスピードで進む時代に我々は生きています。米国の未来学者レイ・カーツワイルは、二〇〇五年の著書で、二〇四五年までにAIが人知を超えるというシンギュラリティ（技術的特異点）を予告しましたが、それよりも早く実現する勢いです。こうしたドッグイヤーでは、立ち止まっていると取り返しのつかない遅れとなります。生き残りのためには、アンテナを常に高く掲げて、有用な新技術を取り込む努力が必要です。う。結びに相場の格言では、「戌笑い」と言います。新しい年が皆様にとつて、笑顔をもたらす素晴らしい年になりますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。